

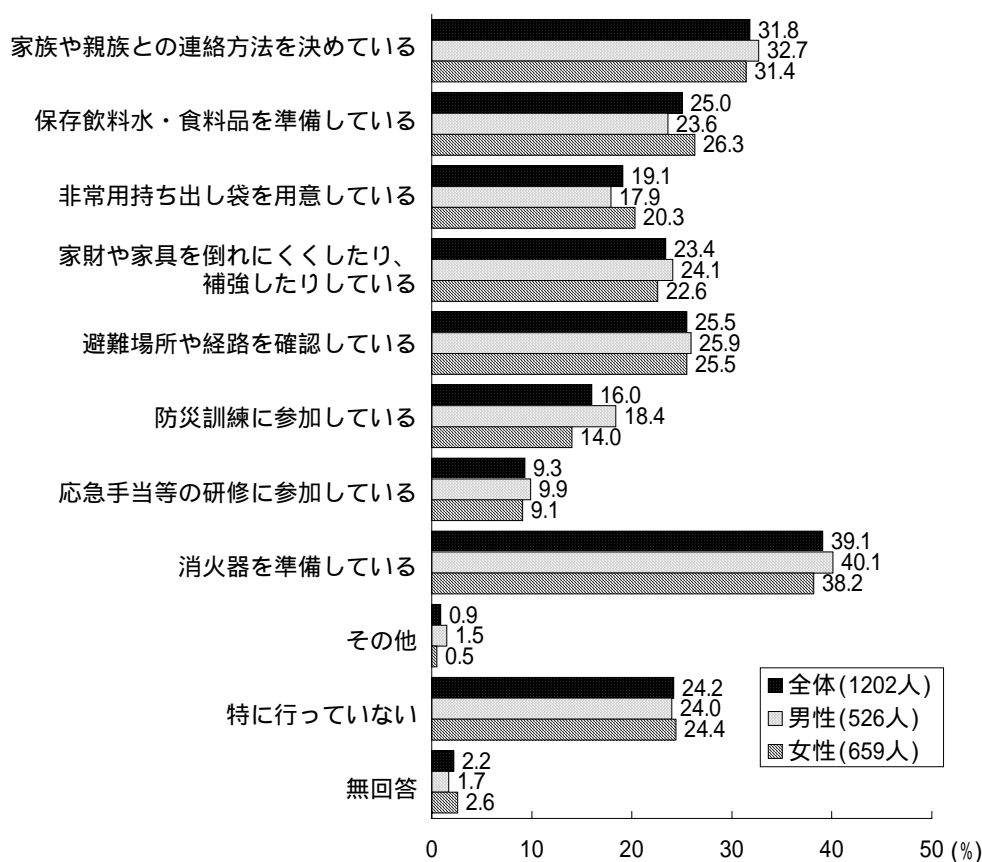
4 . 防犯・防災について

4 - 1 . 行っている災害準備

「消火器を準備している」39.1%、「家族や親族との連絡方法を決めている」31.8%

問11. あなたは、日頃から災害に備え、どのようなことを行っていますか。あてはまるものをすべて選び、番号を で囲んでください。

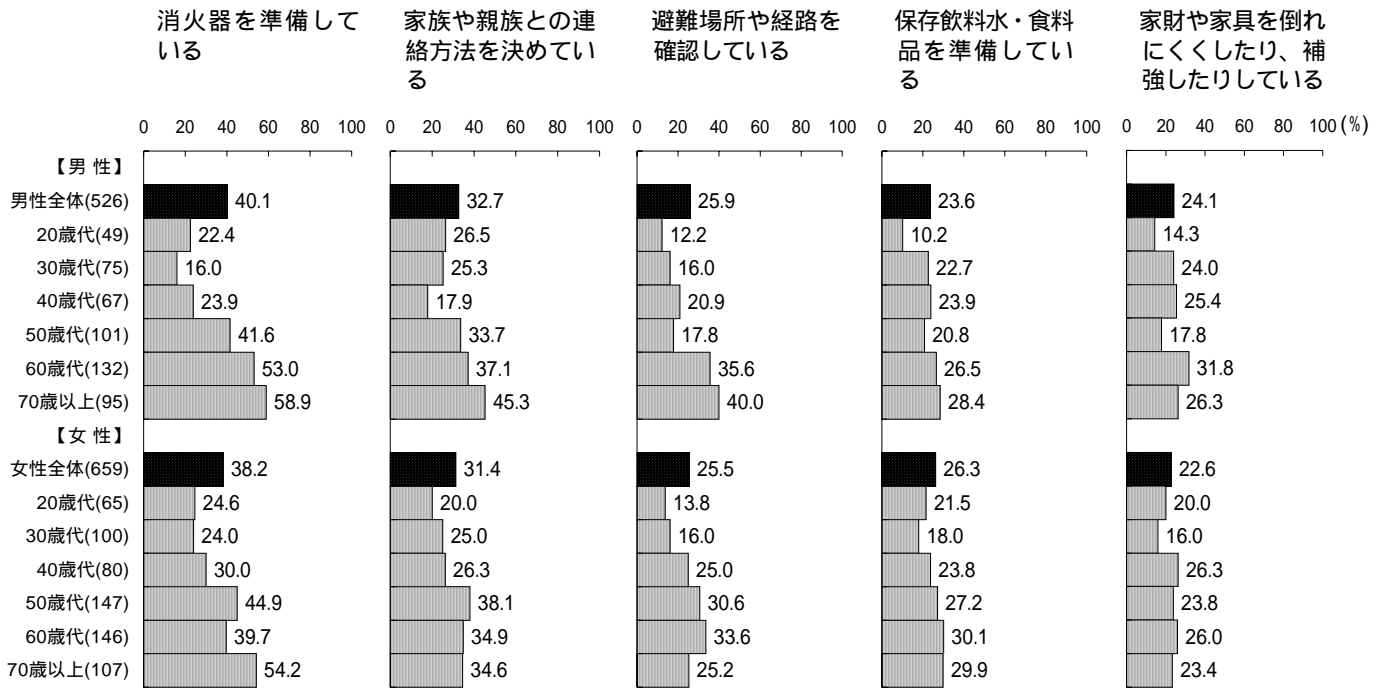
行っている災害準備（全体・性別）



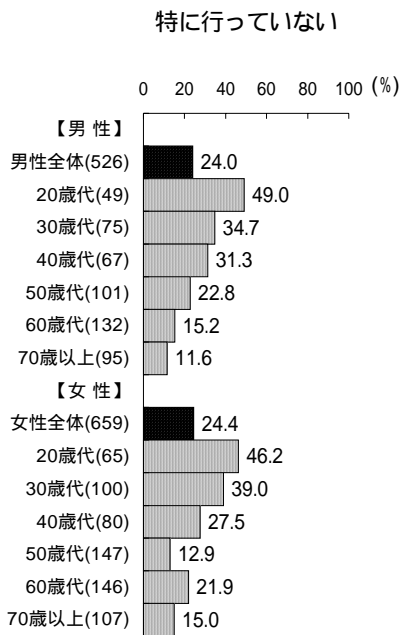
全体で見ると、「消火器を準備している」が39.1%で最も高く、次いで「家族や親族との連絡方法を決めている」(31.8%)、「避難場所や経路を確認している」(25.5%)、「保存飲料水・食料品を準備している」(25.0%)、「家財や家具を倒れにくくしたり、補強したりしている」(23.4%)と続いています。一方、「特に行っていない」も24.2%と高くなっています。また、「防災訓練に参加している」(16.0%)、「応急手当等の研修に参加している」(9.3%)のように、講習等の機会を利用した防災対策を行っている割合は低くなっています。

性別で見ると、「防災訓練に参加している」は、男性(18.4%)が女性(14.0%)を4.4ポイント上回っている以外は、特に大きな差異はみられません。

行っている災害準備（性・年代別 上位5項目）



行っている災害準備（性・年代別「特に行っていない」）



性・年代別でみると、「消火器を準備している」は、年代が高いほど割合が高い傾向にあり、特に男性の60歳代以降の年代と女性の70歳以上の年代で5割台となっています。

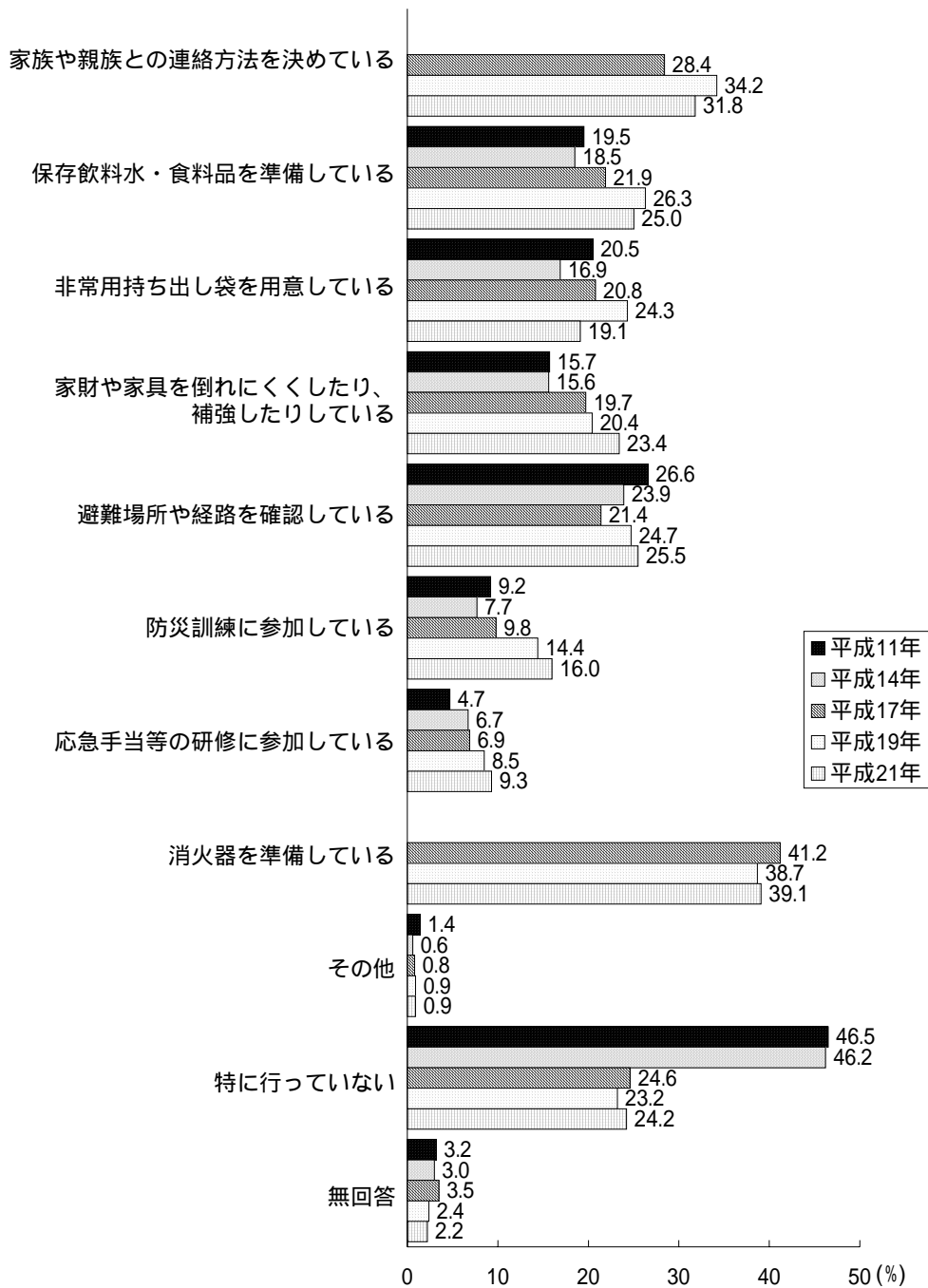
「家族や親族との連絡方法を決めている」も男女とも50歳代以降の年代では3割以上となりますが、40歳代までは1割から2割と低くなっています。

「避難場所や経路を確認している」は、男女とも20・30歳代、男性の50歳代で1割台と低くなっています。

「保存飲料水・食料品を準備している」は、女性の60歳代以降の年代で約3割となっています。

全体的に20・30歳代では準備が少なく、「特に行っていない」は、男性20歳代で49.0%、女性20歳代で46.2%と高くなっています。

行っている災害準備（経年比較）



平成11年度からの調査結果と比較すると、「家財や家具を倒れにくくしたり、補強したりしている」、「防災訓練に参加している」、「応急手当等の研修に参加している」では増加傾向となっています。

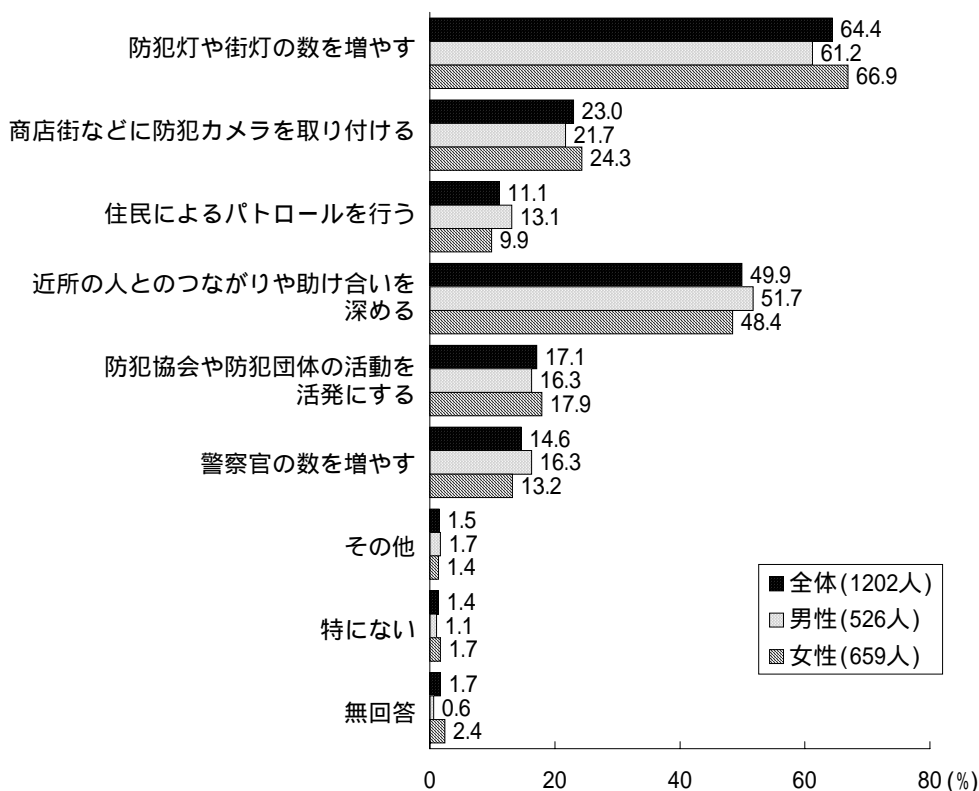
（ 図にみられる平成17年度調査の「特に行っていない」の大幅な減少は、平成14年度までの調査に、「家族や親族との連絡方法を決めている」、「消火器を準備している」の選択肢がないため、「特に行っていない」の減少分は、この値に含まれていることが推測されます。）

4 - 2 . 防犯のために必要な取り組み

「防犯灯や街灯の数を増やす」64.4%、「近所の人とのつながりや助け合いを深める」49.9%

問12. あなたは、犯罪を防止するために、地域や行政としてどのようなことが必要だと思いますか。2つまで選び、番号を で囲んでください。

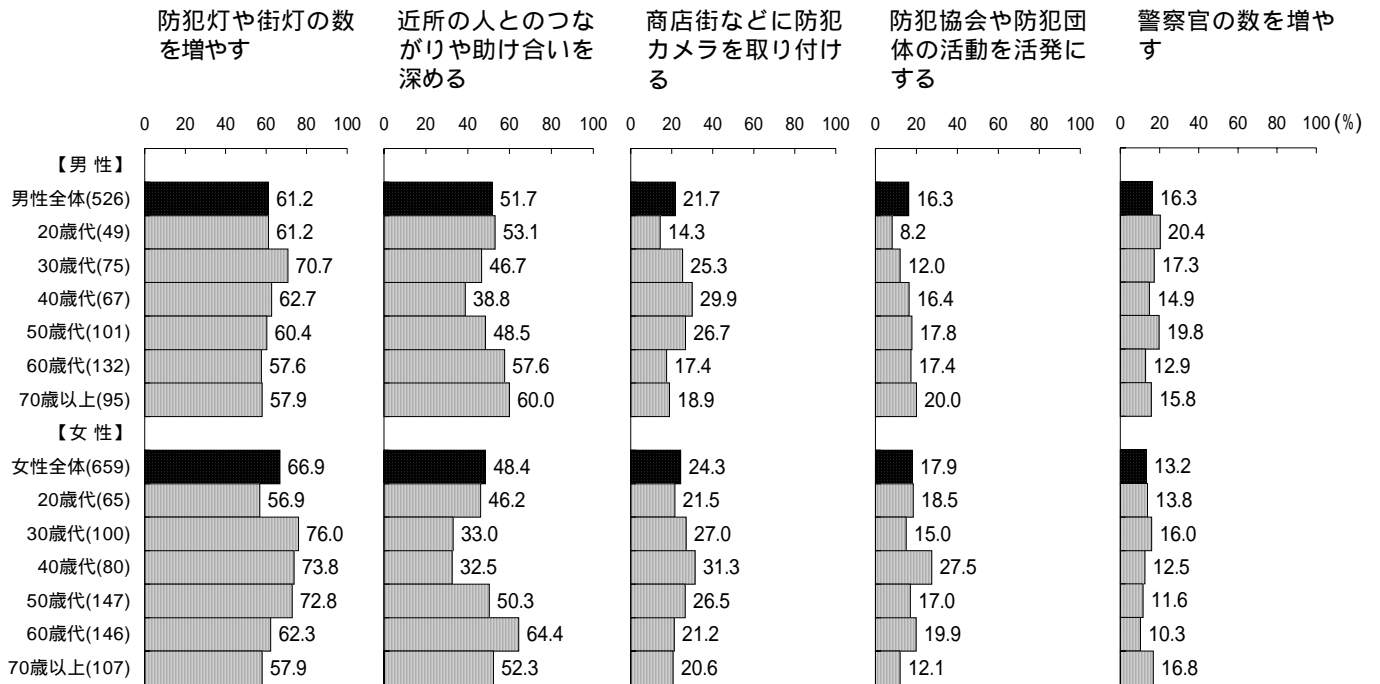
防犯のために必要な取り組み（全体・性別）



全体で見ると、「防犯灯や街灯の数を増やす」が64.4%、「近所の人とのつながりや助け合いを深める」が49.9%でこの2項目が高くなっています。

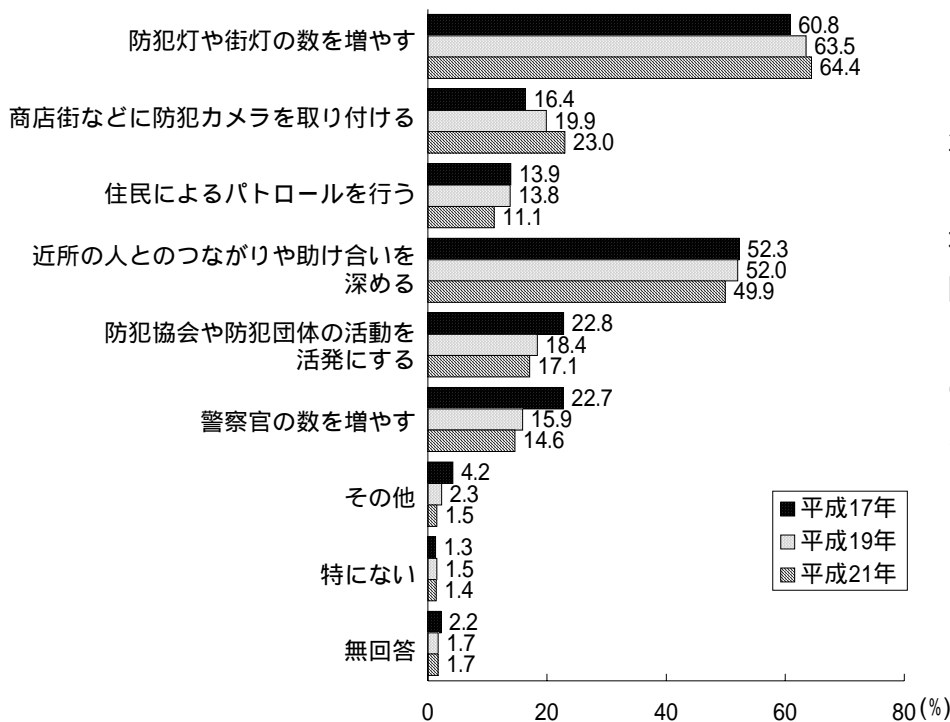
性別で見ると、「防犯灯や街灯の数を増やす」は、女性（66.9%）が男性（61.2%）を5.7ポイント上回り、「近所の人とのつながりや助け合いを深める」は、男性（51.7%）が女性（48.4%）を3.3ポイント上回っています。

防犯のために必要な取り組み（性・年代別 上位5項目）



性・年代別でみると、「防犯灯や街灯の数を増やす」は、女性の30歳代から50歳代と、男性の30歳代で7割台と高くなっています。「近所の人とのつながりや助け合いを深める」は、女性の60歳代で64.4%と高く、その前後の50・70歳以上でも5割台となっています。男性では70歳以上で6割、50歳代と20歳代でも5割台となっています。「商店街などに防犯カメラを取り付ける」は、男女とも40歳代で3割前後と各年代を通じて最も高くなっています。

防犯のために必要な取り組み（経年比較）



平成17年度からの調査結果と比較すると、「防犯灯や街灯の数を増やす」、「商店街などに防犯カメラを取り付ける」はやや増加傾向、他の項目では減少傾向となっています。